玉川学園 地域の新聞

「坂のまち元気プロジェクト」活動報告2024

製作
玉川学園
坂のまち
取材班

この新聞は、玉川大学教育学部の学生がつくる新聞から、「坂のまち元気プロジェクト（ＰＪ）」の活動を紹介する新聞に生まれ変わりました。

坂のまち元気プロジェクトとは　「坂のまち」としての玉川学園地域の魅力をアピールし、地域に興味や愛着をもつ若い世帯を増やすことで、持続可能なコミュニティーの実現をめざす住民らの活動です。

２０２２年、玉川学園コミュニティセンターで開かれた町田市の地区別懇談会のグループを母体にして誕生しました。

坂道使って健康づくり
玉川大で住民向け教室開講

学生の協力で体力測定をする高齢者ら

教育学部・阿部ゼミ「SAKA活」と連携

坂を使って健康づくりをしようと、玉川大学の坂道や大体育館などを使った「健康づくり教室」が２０２４年５月に開講し、65歳以上の13人が10月までのプログラムに参加しました。。

「坂のまち元気ＰＪ」のメンバーでもある教育学部の阿部隆行准教授による企画です。参加者に坂を使った運動能力向上のメニューを提示し、阿部ゼミの学生に加え、同学部の山田信幸教授のゼミ生も協力して、マンツーマンに近い形で体力テストを実施。学生と一緒に数値を見ながら指導を受けるなどして、半年で変化が見られるかを調べました。

大学では、やはり坂を生かした「SAKA活」と称する取り組みも始まっており、これと連動する形です。

また、玉川学園、東玉川学園、南大谷地区をカバーする町田第３高齢者支援センターにもＰＪのメンバーがいて、利用者に参加を呼び掛けてもらいました。

「坂があるから玉川学園のお年寄りは元気」という通説を大学で検証してもらえないかというのは「坂のまち元気ＰＪ」ができた時からのアイデアで、それが実現したことになります。

体力テストの結果は11月の玉川学園コミュニティセンターまつりで報告されました。筋力や持久力などは、半年で数値の向上した参加者が多かったとのことです。

阿部准教授は「地域の高齢者と大学生が楽しみながら交流できました。より精緻なプログラムを開発していきたい」と話していました。

「健康教室」に関連して、住民がキャンパス内の坂を歩く催しが開かれるなど、このＰＪをきっかけに学園とまちの交流が深まっています。

町五小6年生が坂歩き メンバーが由来など紹介

「なかよし坂」で説明を聞く6年生

坂を歩くことでまちを元気にしようという活動は、若い世代にも広がりを見せています。

玉川学園４丁目の町田市立町田第五小学校では２０２４年10月、６年生が総合的な学習の時間を使って地元の坂のことを学びました。

子どもたちはまず、体育館でＰＪメンバーから、名前のついている玉川学園前駅周辺の10の坂について、名前の由来を聞きました。

そのあと、３クラスが12グループに分かれて時間差で学校をスタート。坂を上がったところに幼稚園や高齢者支援センター保育園が集中していて、小学校の通学路にもなっている「なかよし坂」と、急坂として知られる「月見坂」を巡るコースを歩きました。町五小の教員だけでなく保護者のボランティアも同行しました。

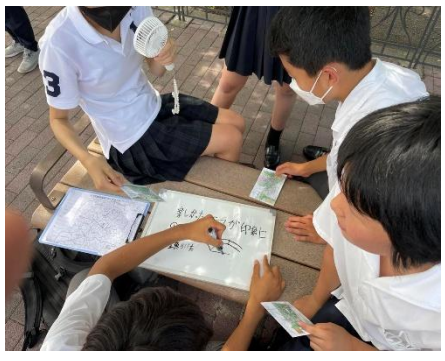
ＰＪでは10の坂をスケッチしたポストカードを２０２２年度に作成しました。

坂の途中では絵の作者である建築士の河原井弘道さんら、待機するＰＪのメンバーから、それぞれに坂へのこだわりの話を聞きました。

また、学校に戻ったあとは、10の坂以外も含めて、ＰＪメンバーが用意した地図上の自分が推す坂にシールをはったりしました。

坂歩きの後、町五小では、振り返りとして、坂の新聞をつくるなどして、坂のまちの将来を考える活動を続けています。

学園中学部の生徒も



発表の準備をする中学部の生徒たち

一方、玉川学園中学部のクラス代表者でつくる学級委員会のメンバーも、２０２４年７月、ＰＪメンバーと一緒に学園地域の坂を歩きました。

参加者の中には、現在は他の地域に住んでいるものの「おばあちゃんの家があるので（学園地域の）坂のことは知っている」といった生徒も。歩いた後は、駅前の広場で小さなホワイトボードを使って代表者が感想や気づいたことを発表をしました＝写真＝。

中学部と小学部ではその後、学内の坂の名前をつける取り組みも始まっています。

坂のまち元気プロジェクト - まちだの活動を知る、つなげる｜まちかつ
machikatsu-machida.com

「あなたはどの坂を推しますか」

コミセンまつりで投票呼びかけ

玉川学園コミュニティーセンターまつりは2024年11月2日と3日の両日行われ、プロジェクト（PJ）」も2023年に続いて出展しました。新しい企画として、名前の坂のどの坂を推すかを来場者に答えてもらう「推し坂選手権」を開催しました。

トップは「女坂」

コミセンまつりの会場には、玉川学園前駅周辺で名前がついている10の坂の命名の由来や、場所を示した地図を掲示。シールをはってもらう方式で集計しました。その結果はグラフのような結果で、「うぐいす坂」の「女坂」の方がトップとなりました。

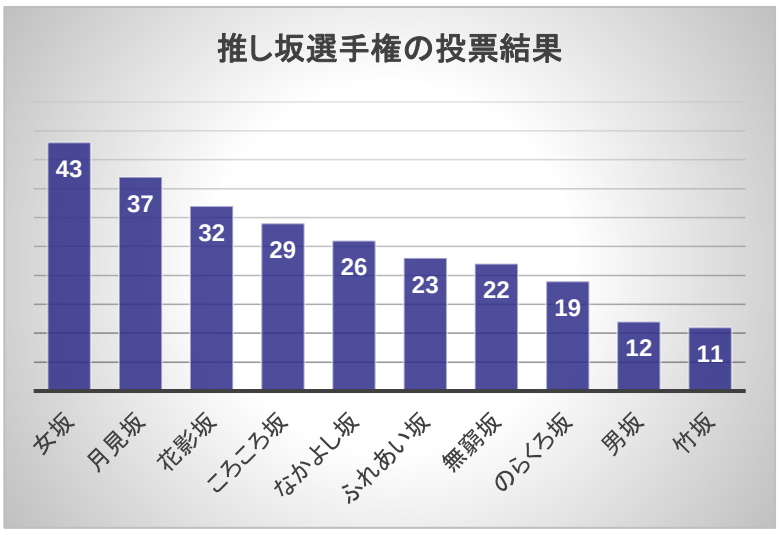
また、10の坂以外の推し坂では、スーパー三和裏の急坂に7票が入りました。

一方、町田第五小学校の6年生の投票では、実際に「総合的な学習の時間」に歩いた「なかよし坂」（24票）と「月見坂」（18票）、学校に近い「花影坂」（13票）がベスト3がとなっています。

会場には、10の坂の原画とともに制作過程がわかるスケッチも展示されるとともに、2024年もポストカードが無料配布されました。一番人気は投票結果と同様、「うぐいす坂」の「女坂」でした。

またセンターわきの「ふれあい坂」では、玉川大学阿部ゼミ生による「坂道グリコ」も開催。雨天のため1日だけでしたが、子どもたちの人気を集めました。

なお、ポストカードは、玉川学園前郵便局や城南信用金庫玉川学園支店のほか、地域の店舗などで配布しています。PJでは2025年度以降、坂の近くにある店舗などに、それぞれその坂のポストカードを置いてもらったり、新しい坂の名前を募集したりといった活動も検討しています。



（注）「うぐいす坂」には「女坂」と「男坂」がある

坂の思い出や推す理由も聞いてみると

「推し坂選手権」では、来場者に坂にまつわる思い出やその坂を推す理由なども書いてもらいました。住民の坂への思いがたくさん集まりました。その一部を紹介します。

「玉川学園に引っ越してきてはじめて通った時、急な坂に驚きました。ヒールをはいて歩くのが怖かったです。その坂の名前が月見坂だと知り、町への愛着がわいてきました」

「勾配が途中から変わる感じとながめが気に入っている。車で通るには勇気が要るとこも好き」
（月見坂）

「小学生の頃、友人のおばあちゃんのお宅によく遊びに行ったのですが、その時によく通った帰り道の坂です。車通りも少なく、ホッとする坂です。「桜の季節が大好きでした。名前もすてき！」
（花影坂）

また「美しいポストカードを通じて、坂のまち・玉川学園に住むことに誇りを感じるようになりました」といったうれしい声もありました。

さらに「成瀬教会近くの75段の階段が好きです。トレーニングのつもりで上り下りしてから駅に向かいます」という、勇ましいコメントもいただいています。

まちへの愛着、学園に住む誇り…

ポストカードの制作過程がわかる展示（下）と「坂道グリコ」に参加する親子（左）

坂のまち
玉川学園
ギャラリー

月見坂

撮影者
鈴木政和
撮影日
2024年9月17日

※とっておきの
写真を募集します